

## 第二級海上特殊無線技士試験問題

(注) 解答は、答えとして正しいと判断したものを一つだけ選び、答案用紙の答欄に正しく記入(マーク)すること。

法規 12問 } 24問 1時間  
無線工学 12問 }

### 法 規

[1] 次の記述は、電波法の目的に関する規定である。

内に入れるべき字句を下の番号から選べ。

「この法律は、電波の公平かつ  な利用を確保することによって、公共の福祉を増進することを目的とする。」

1. 有効
2. 合理的
3. 適正
4. 能率的

[2] 次の記述は、送信設備に使用する電波の質について述べたものである。電波法の規定に照らし、 内に入れるべき字句を下の番号から選べ。

「送信設備に使用する電波の  等電波の質は、総務省令で定めるところに適合するものでなければならない。」

1. 周波数の偏差及び安定度
2. 周波数の偏差及び幅、高調波の強度
3. 周波数の偏差、空中線電力の偏差
4. 周波数の偏差及び幅、空中線電力の偏差

[3] 第二級海上特殊無線技士の資格を有する者が、1,606.5キロヘルツから4,000キロヘルツまでの周波数の電波を使用する船舶局の無線電話で国内通信のための通信操作を行うことができるのは、空中線電力何ワット以下か、正しいものを次のうちから選べ。

1. 50ワット
2. 30ワット
3. 10ワット
4. 5ワット

[4] 無線従事者がその免許を取り消されることがある場合は、次のどれか。

1. 電波法に違反したとき。
2. 免許証を失ったとき。
3. 日本の国籍を失ったとき。
4. 引き続き6箇月以上無線設備の操作を行わなかったとき。

[5] 船舶局が安全通信を行ったとき、電波法の規定により免許人がとらなければならない措置は、次のどれか。

1. 遅滞なく国土交通大臣に報告する。
2. 速やかに所属海岸局長に通知する。
3. 総務省令で定める手続により、総務大臣に報告する。
4. 総務大臣に届け出るとともに無線検査簿に記載する。

[6] 無線業務日誌の保存期間は、電波法施行規則では、使用を終わった日からどれほどの期間と定められているか、正しいものを次のうちから選べ。

1. 1年間
2. 2年間
3. 3年間
4. その無線局の免許の有効期間満了の日から1年間

## 第二級海上特殊無線技士試験問題

### 法 規

[7] 次の記述は、秘密の保護について述べたものである。電波法の規定に照らし、 内に入れるべき字句を下の番号から選べ。

「何人も法律に別段の定めがある場合を除くほか、 に対して行われる無線通信を傍受してその存在若しくは内容を漏らし、又はこれを窃用してはならない。」

1. すべての無線局
2. すべての相手方
3. 特定の相手方
4. 通信の相手方

[8] 次の記述は、無線通信の原則について述べたものである。無線局運用規則の規定に照らし、 内に入れるべき字句を下の番号から選べ。

「無線通信は、正確に行うものとし、通信上の誤りを知ったときは、 」

1. 直ちに訂正しなければならない。
2. 始めから更に送信しなければならない。
3. 適宜に通報の訂正を行わなければならない。
4. 通報の送信後訂正箇所を通知しなければならない。

[9] 無線電話通信において、応答に際し概略10分(海上移動業務の無線局と通信する航空機局に係る場合は5分)以上経過しなければ通報を受信することができない事由があるとき、応答事項の次に送信することになっている事項は、次のどれか。

1. 「お待ちください」及び呼出しを再開すべき時刻
2. 「どうぞ」及び通報を受信することができない理由
3. 「お待ちください」、分で表す概略の待つべき時間及びその理由
4. 「どうぞ」及び分で表す概略の待つべき時間

[10] 無線局が相手局を呼び出そうとするとき、遭難通信等を行う場合を除き、一定の周波数によって聴守し、他の通信に混信を与えないことを確かめなければならないが、この場合において聴守しなければならない周波数は、次のどれか。

1. 自局の発射しようとする電波の周波数その他必要と認める周波数
2. 自局に指定されているすべての周波数
3. 自局の付近にある無線局において使用する電波の周波数
4. 他の既に行われている通信に使用されている周波数であつて、最も感度の良いもの

[11] 156.8MHzの周波数の電波が使用できるのは、次のどれか。

1. 漁業通信を行う場合
2. 出入港に関する通報の送信を行う場合
3. 電波の規正に関する通信を行う場合
4. 遭難通信を行う場合

[12] 船舶局が安全信号を受信したときは、電波法の規定によりどうしなければならないか、正しいものを次のうちから選べ。

1. 自局に関係がないものであつてもその安全通信が終了するまで受信する。
2. 自局に関係のないことを確認するまでその安全通信を受信する。
3. できる限りその安全通信が終了するまで受信する。
4. 少なくとも2分間はその安全通信を受信する。